

B-42 直接染料による染色に及ぼす用水の影響

奈良女大家政 ○原田 淑子
吉川清兵衛

1. 直接染料による染色に際して、その染色用水中の種々の金属イオンが染着性（染着濃度、色相など）にどのような影響を示すか、また、この場合、これら金属イオンの封鎖剤を用いると、どのように変化するか、などを検討する。

2. 被染材料は平織綿布で完全に糊ぬきをしたものを用いた。染料は純度を明らかにした赤、橙、黄、緑、青および褐色など7種の直接染料をえらび、染色用水は人工硬水を調製し、 Ca^{2+} 、 Fe^{3+} などの金属につき実験した。硬度は2~15 D.H とし、また、金属封鎖剤を用いる場合は EDTA-2Na 塩とした。染色は恒温上下振盪式染色機を用い、染着濃度は三刺激値 X, Y, Z の合計値 S をもって目安とした。測定は東洋理化工業 K. K.

の色差計により色差，色度図などを求めた。

3. EDTA を添加しない各金属イオンのみが存在する染浴では硬度が小さいとき，かえって染着濃度が上昇するものがあり，促染助剤的な効果があられる。EDTA 添加の染浴では金属が完全に封鎖されれば，このような助剤効果があられもないようにも思われるが，結果は必ずしもそうではなく，したがって封鎖剤の使用は場合によっては適当ではないことも考えねばならない。なお，色差，色相などは染料によってその変化の状況は異なっている。